

## 《第2回 ICDアワード受賞者》

## 第2回 ICDアワード



北海道医療大学歯学部

呂 令 凱

この度は、第2回ICDアワードを賜り、誠に光栄に思います。今年の3月、私は北海道医療大学を卒業し日本の歯科医師免許を取得致しましたが、また受験生として台湾の歯科医師国試を今年の7月に受験する予定でございます。

今回、私たちが受賞致しました賞はUNIVERSITI TEKNOLOGI MARA主催11th UiTM Dental Student's Scientific Symposiumでベストインターナショナルアワードの第3位でした。コロナ禍という状況下だったこともありマレーシア現地でのコンテストへの参加は叶わず非常に残念でしたが、オンラインで世界から約50チームが参加をしておりましたので、多くの質問や知識の交流を感じることができました。

大学3年時から研究に興味を持っていた同期の宮本康佑と野口裕季子と私の3人が安彦善裕教授の元、歯科医学研究を履修致しました。私たちは、Ariuntsetseg Itemonei先生が行っているミツバチ花粉の研究に深い興味を持ち一緒に実験をさせて頂きました。研究の内容は、2群にネズミを分け、ミツバチ花粉を含む食糧と含まない食糧をそれぞれに摂取させ、その2群の口腔内の唾液と粘膜を採取し比較するという対照実験でございます。結果といたしましては、ミツバチ花粉を摂取したネズミの口腔内はLactococcusレベルが上昇しました。Lactococcusは人体内免疫力など色々なメカニズムに影響し、また、Lactococcusも p. Gingivalis を含むバイオフィルムの形成の防止の効果をもつので、口腔内の健康に多くの

利点を有すると推測します。

私は、今回の受賞で勇気と自信を得ることができました。学生がもつ知識では厳密な研究を行うことは簡単ではありませんでしたが、順調に研究を行える環境を与えてくださったのは、我らが母校である北海道医療大学病理学分野の安彦善裕教授、Ariuntsetseg Itemonei先生、Durga paudel先生の御指導御鞭撻のおかげであります。また同期である宮本康佑と野口裕季子と組んだ3人のチームワークにより今回の受賞に繋がったと感じております。私の目標の1つといたしまして、台湾、日本国外への進学がございます。今後も歯科関連で日本を含む世界での活動がしたいと考えておりますので、またいつの日にか日本に帰国いたしました際に何かのお役に立てれば幸いと感じております。



表彰式にて